

WWFジャパン スクール・パリ協定

国連気候変動交渉の基礎

WWFジャパン
気候変動・エネルギーグループ長
山岸 尚之

2016年10月26日（水）

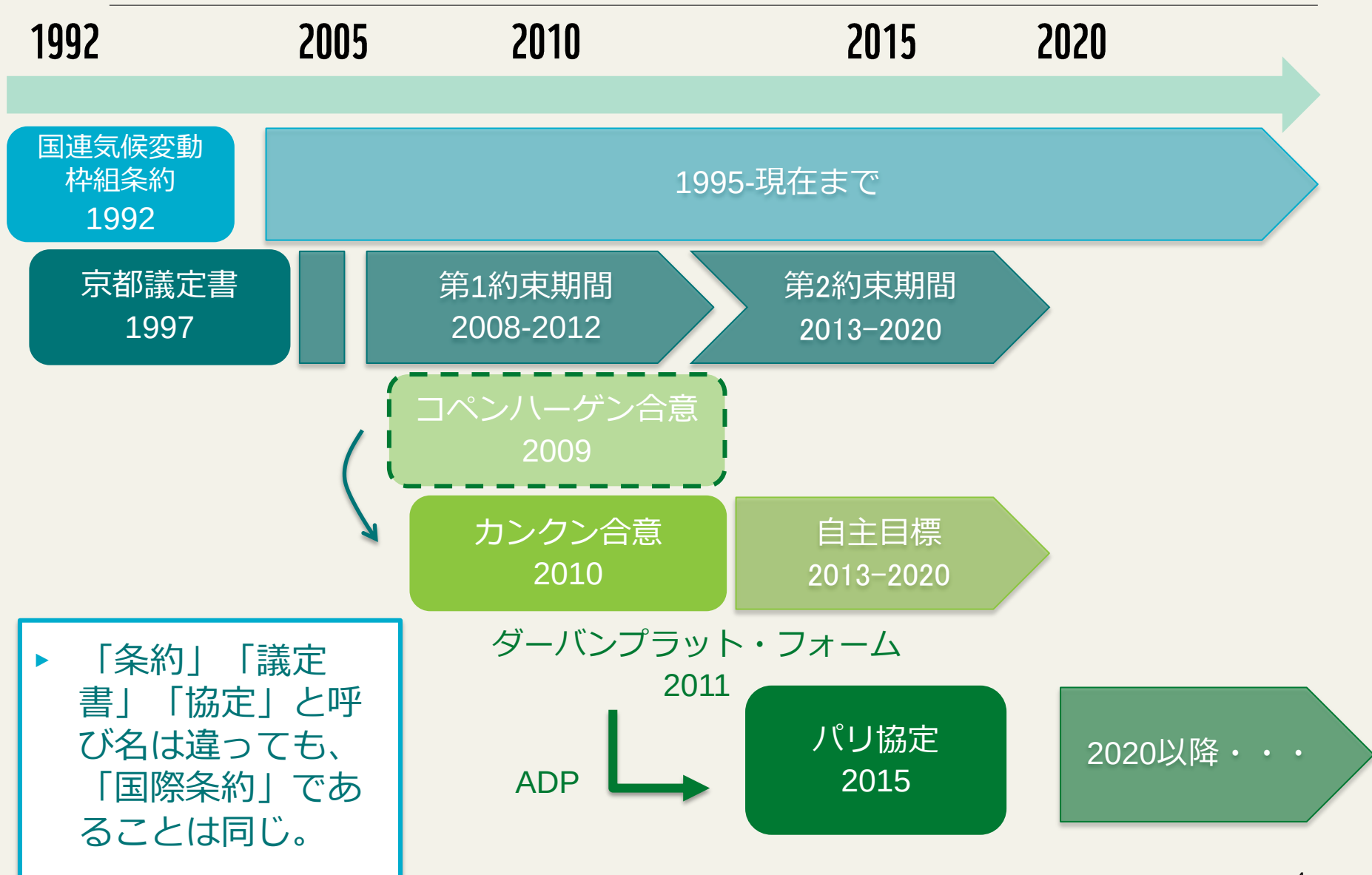
1. パリ協定までの流れ
2. 論点の背景
3. パリ協定の全体像

1. パリ協定までの流れ

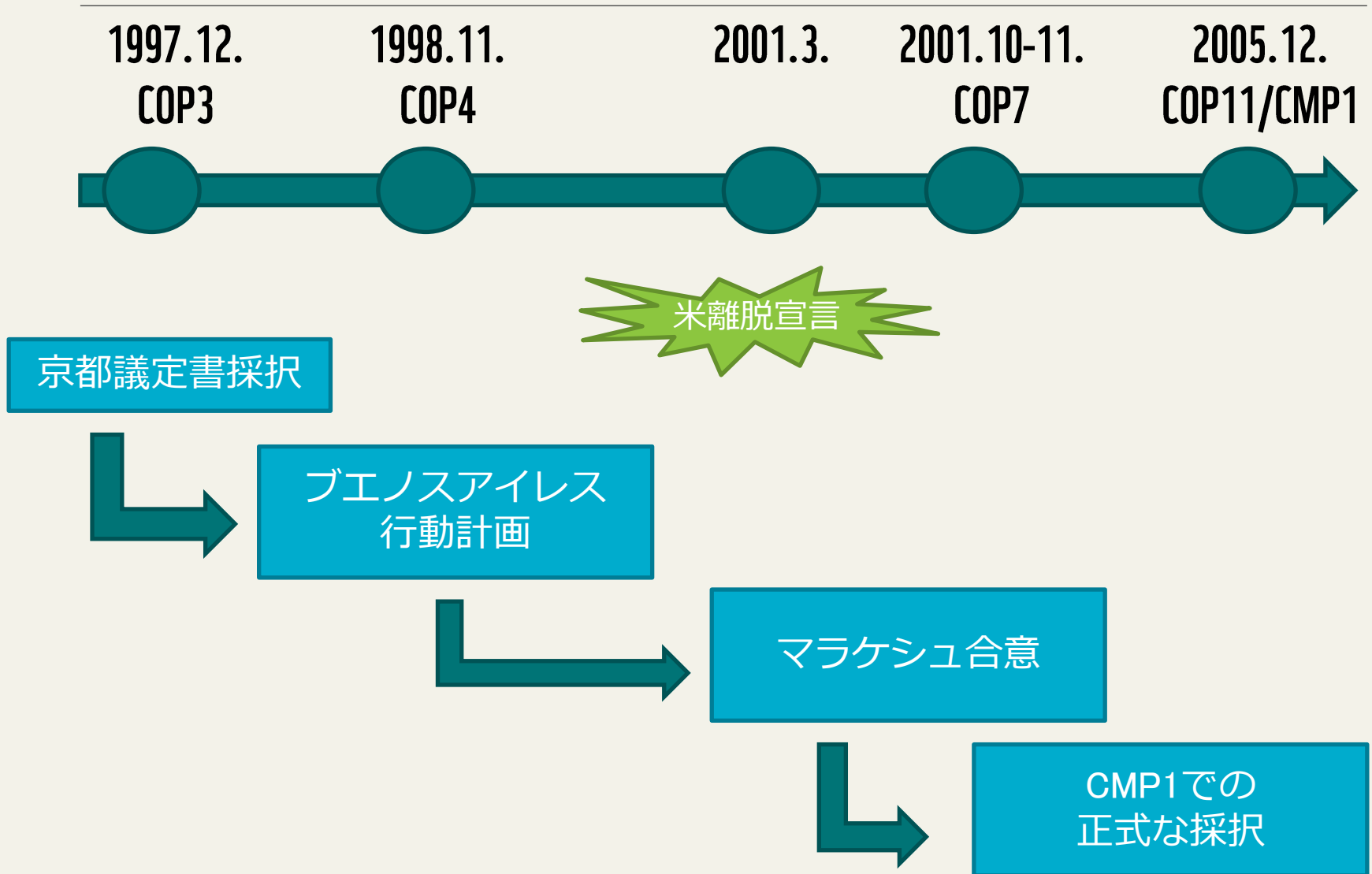
- UNFCCCから今日まで



UNFCCC→京都議定書→パリ協定



京都議定書の時の「ルールブック」作成の流れ

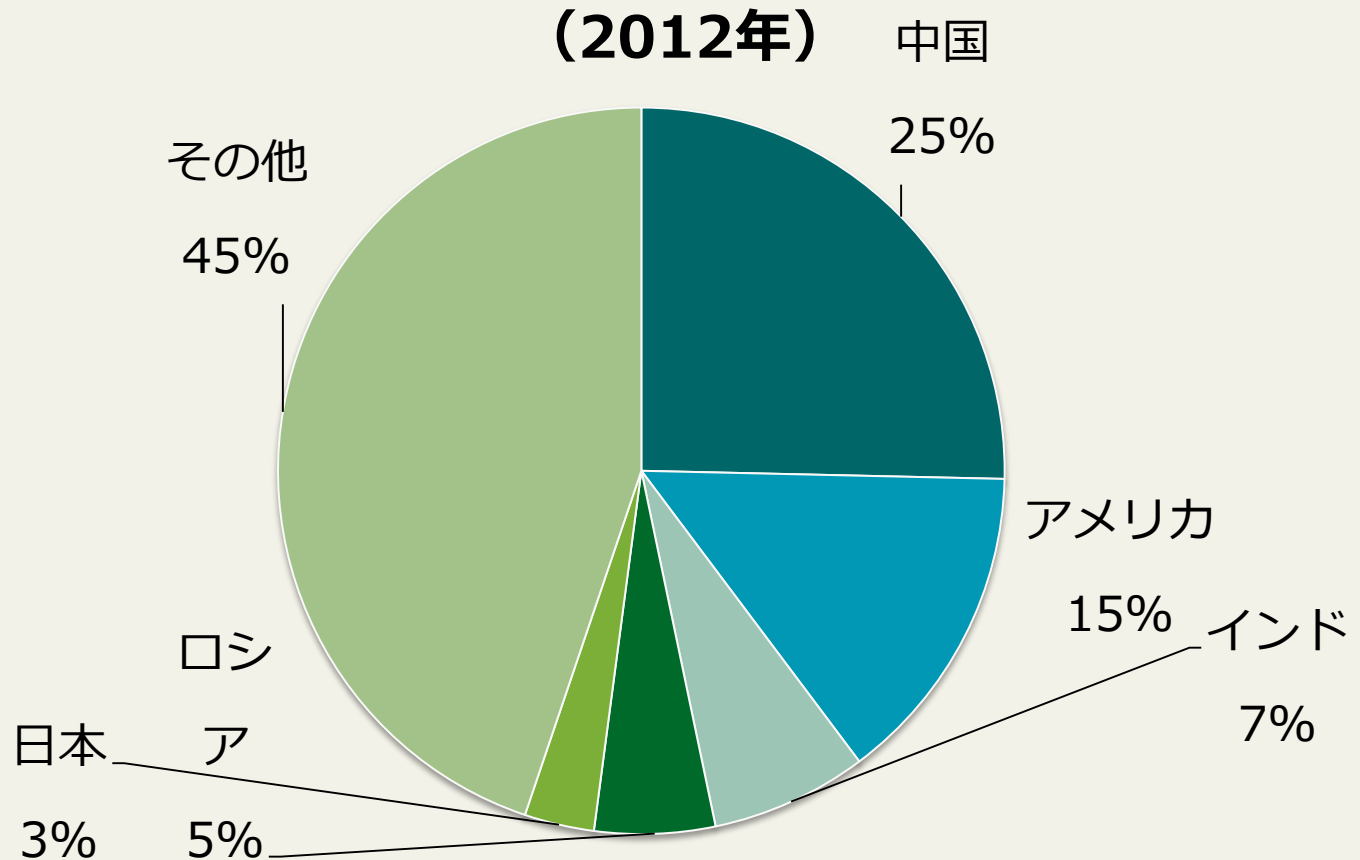


2. 論点の背景

- － 抑えておくべき背景

背景としての世界の排出量の国別割合

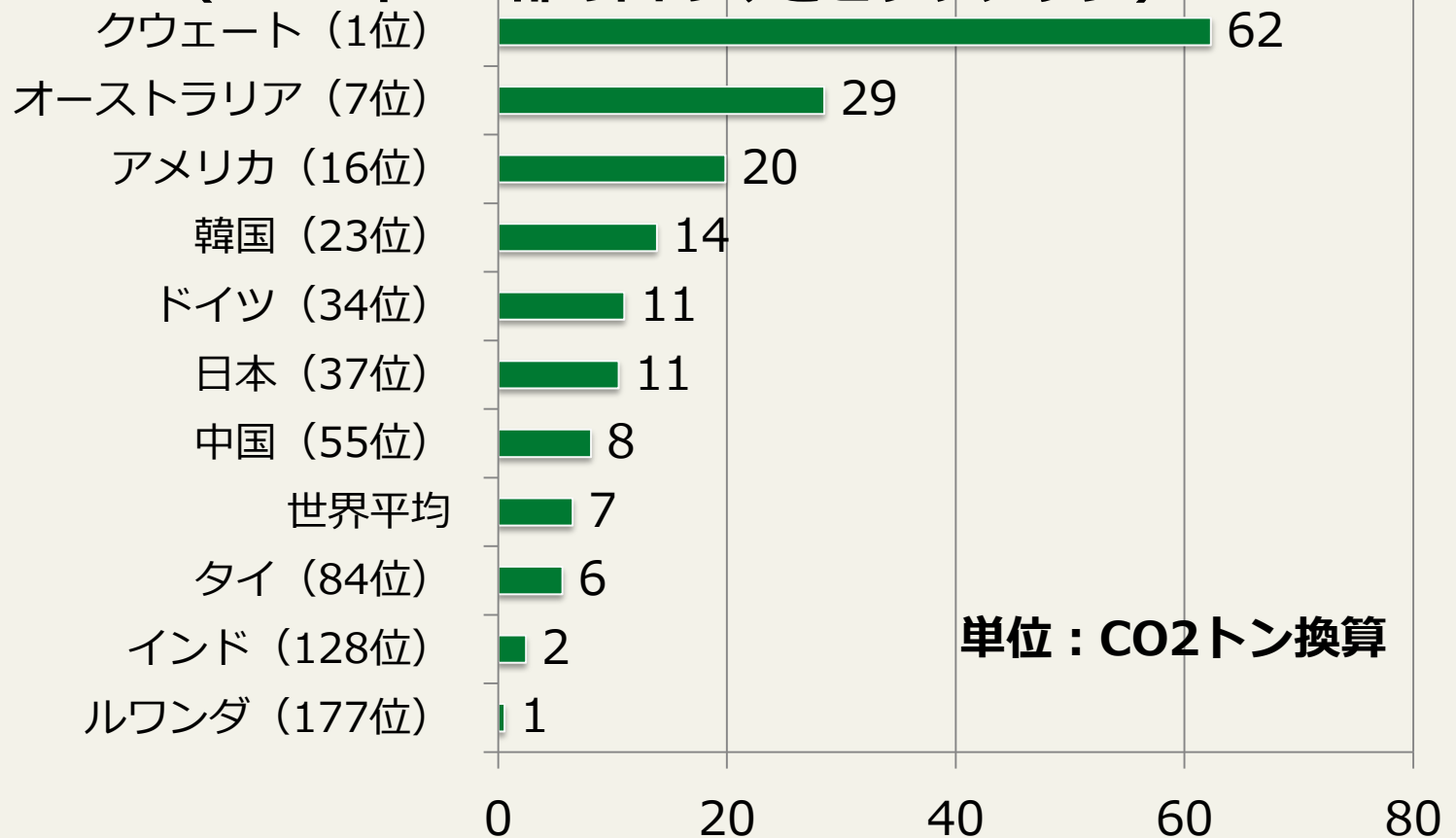
世界の5大排出国の温室効果ガス排出量の割合



「一人当たりの排出量に見る「衡平性」の問題

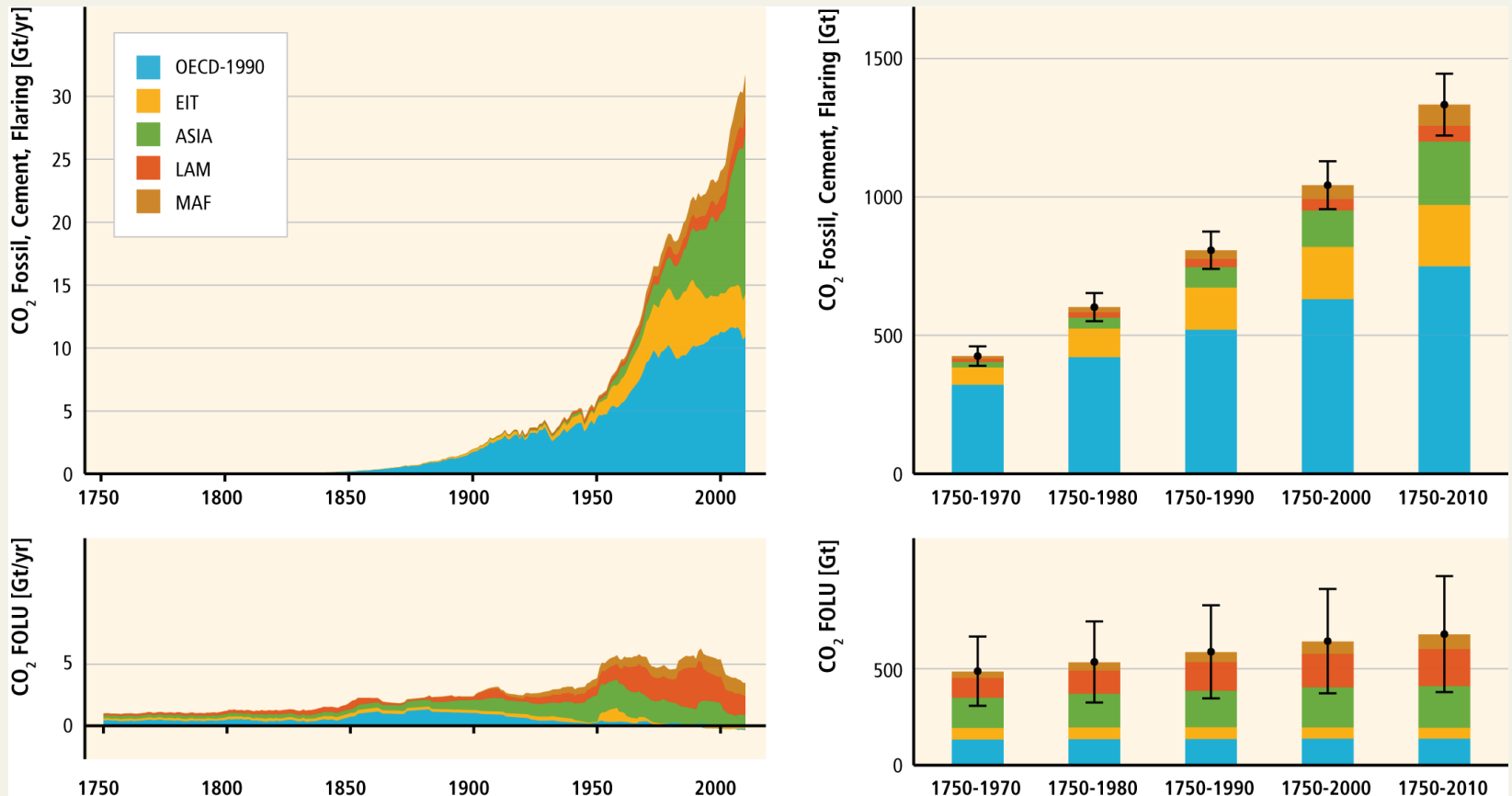
人口一人当たりの温室効果ガス排出量

(2012年 一部の国のみをピックアップ)



産業革命以降の世界のCO2排出量の増加（歴史的責任）

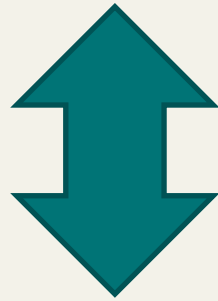
世界のCO2排出量の推移（1750～2010年）



(出所) IPCC (2014) *Climate Change 2014: Mitigation of Climate Change: Summary for Policy Makers (WGIII Contribution)*. IPCC.
<http://www.ipcc.ch/report/ar5/wg3/>

「差異化」は何が「衡平か」を反映する

全ての国が協力して
取り組むべき問題



「どの国が」
「どれくらい」やるべきか



主要グループ

※この図は網羅的ではありません。また、一部、メンバー国の重なりを反映できておりません。

G77 + 中国

BASIC

ブラジル、南アフリカ

中国、インド

サウジアラビア

LMDC

ボリビア、キューバ、ニカラグア、ベネズエラ、・・・
アンティグア・バーブーダ、・・・

ALBA

AOSIS

ツバル、フィジー、モルディブ等、約40カ国

LDC

バングラデシュ、ネパール、エチオピア、ソマリア等、約50カ国

AILAC

チリ、コロンビア、コスタリカ、ペルー、パナマ、グアテマラ

EU

EU28カ国

アンブレラ・グループ

アメリカ、オーストラリア、日本、ニュージーランド、ロシア、ウクライナ、ノルウェー、カザフスタン・・・

EIG

韓国、メキシコ、スイス、リヒテンシュタインなど

3. パリ協定の全体像

象徴的な出来事としての「高い野心連合」

“Coalition of High Ambition”



UNFCCC Webcast より

時期	経緯
会議以前	EUおよびアフリカ・カリブ海・太平洋諸国（79カ国）からなるグループ
12月9日	アメリカ、コロンビア、メキシコ、ノルウェーが加入
12月11日	ブラジル、フィリピン、セイシェル、ルクセンブルグ、チリ、フィジー、グレナダが加入
12月12日	日本、オーストラリアなどが加入

パリ協定の全体像

気温上昇を1.5℃／2℃未満に抑える世界

段階的な改善
(2025・2030年
以降も視野に)

緩和

温室効果ガス
排出量削減
今世紀後半
実質ゼロ

森林
メカ

適応

気候変動影
響
の軽減対応

損失と被害
発生被害へ
の救済等

NDC (国別目標)

各国の排出量削減目標
+ 適応・資金・技術・キャパシティ・ビルディング

資金

技術開発・移転

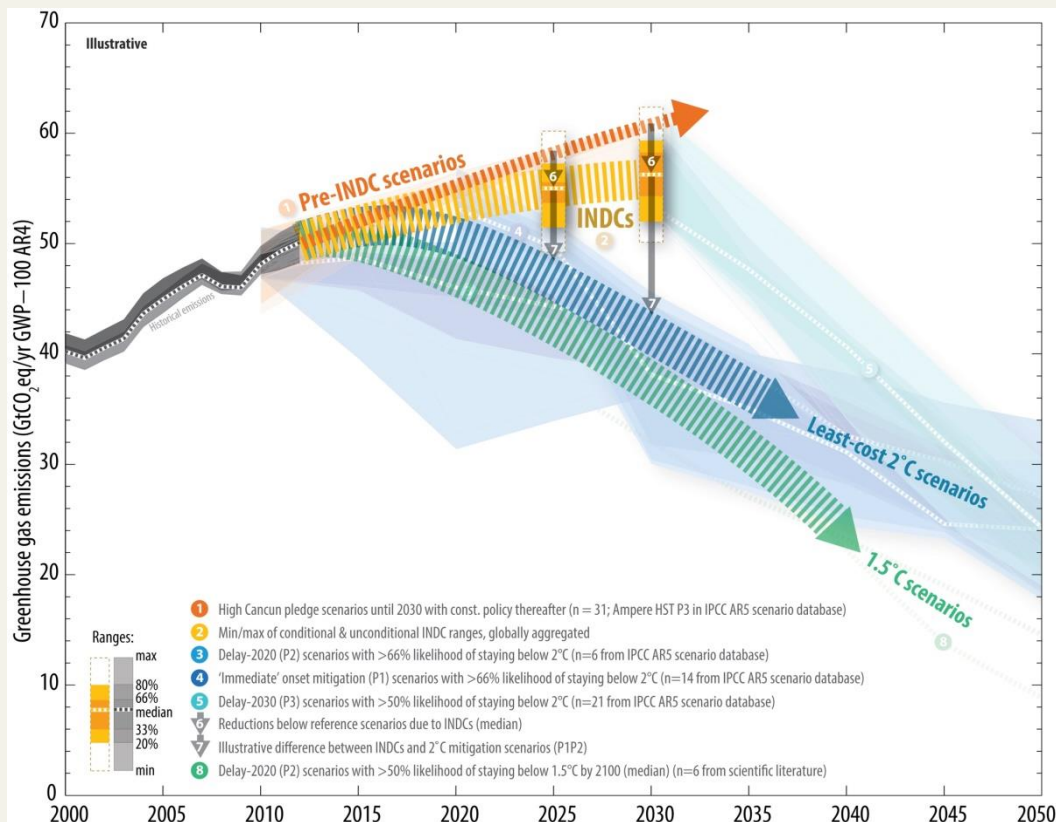
キャパシティ・ビルディング
(人材育成等)

国連外での取り組み (企業・自治体・NGO) の取り込み

5年ごとの
見直し
世界全体
での進捗
確認

「透明
性」
枠組み

目指している所と現状



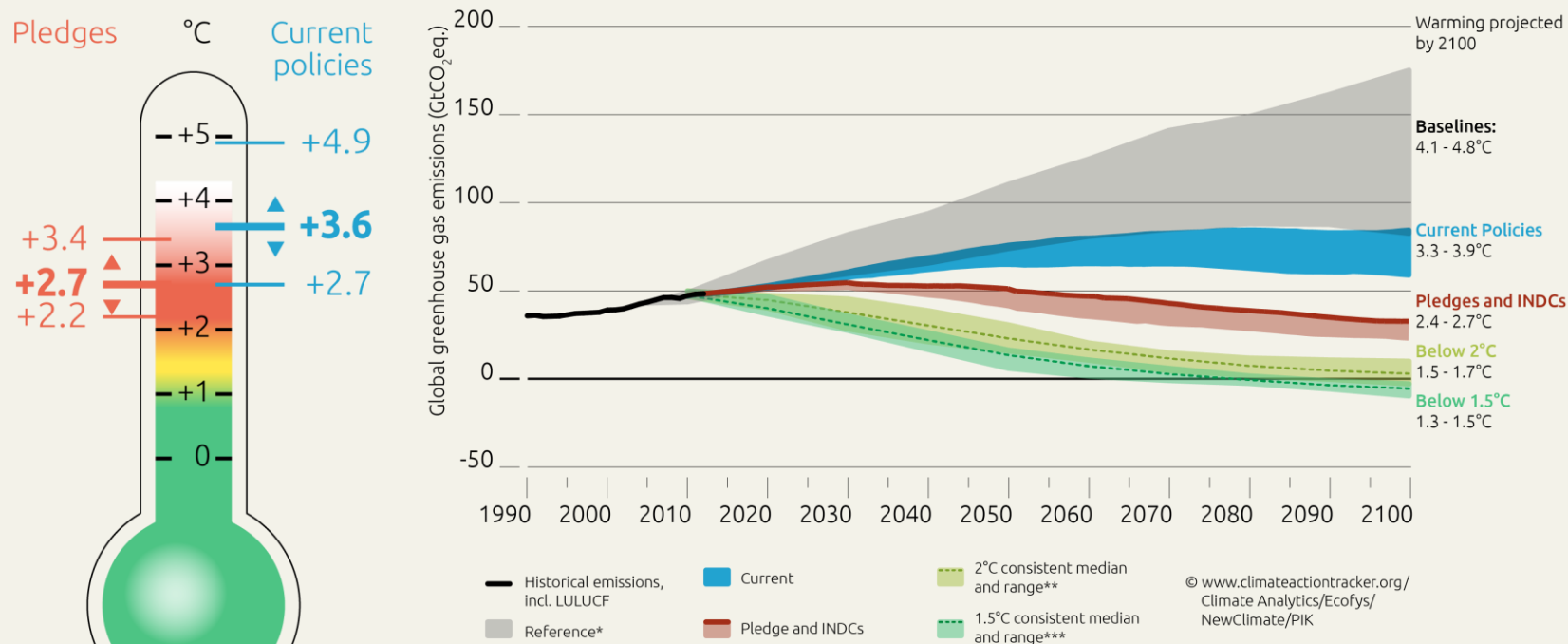
2030年時点での INDC実施後の排出量と 各シナリオとの差

INDCなし	↑33億トン
総INDC	562億トン
2°Cに必要	↓152億トン
1.5°Cに必要	↓226億トン

※4月4日までに提出された161のINDC（189カ国をカバー）

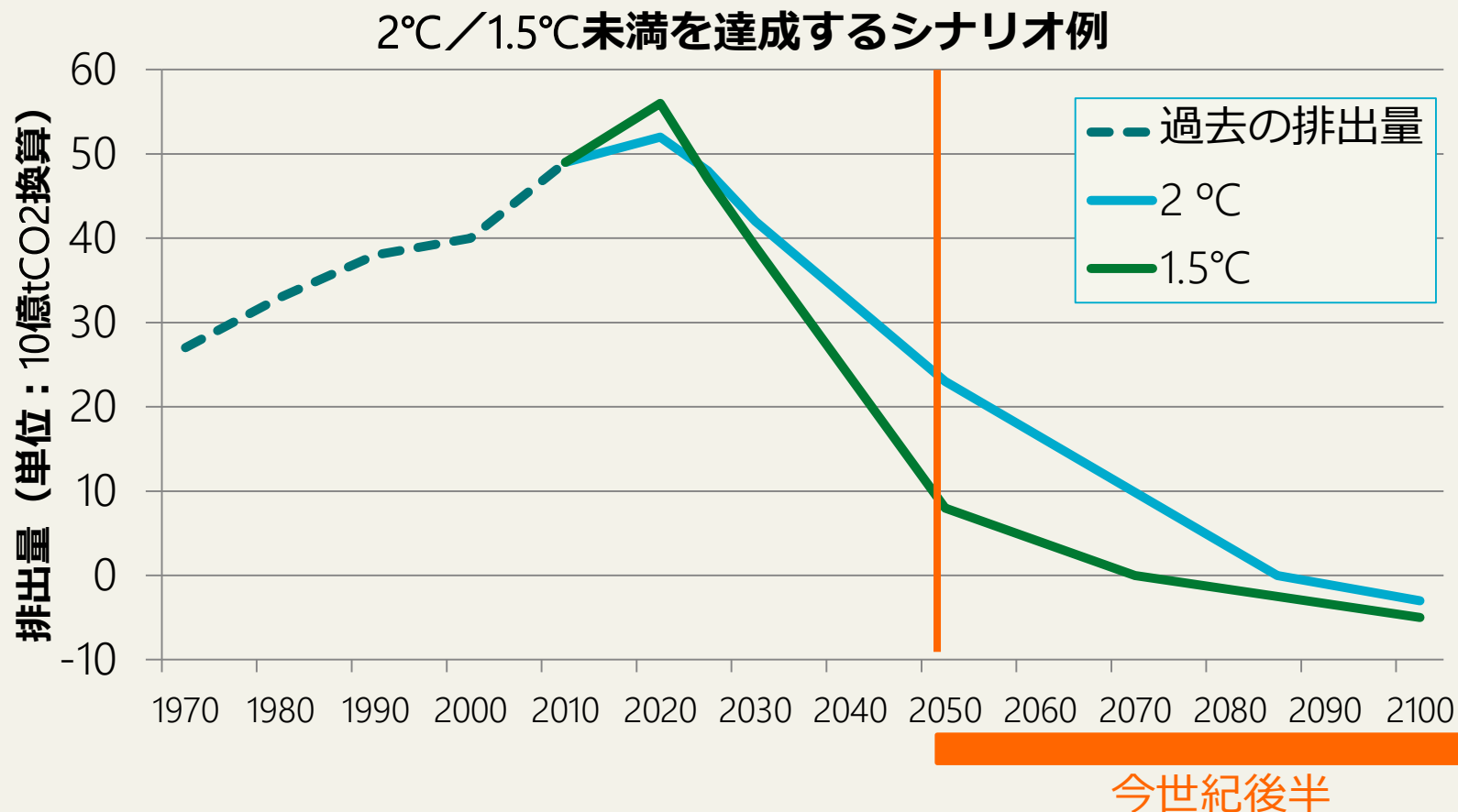
- ▶ 国連気候変動枠組条約（UNFCCC）事務局が、COP21決定を受けて、昨年の「統合報告書」をアップデート。
- ▶ 現在の各国の2025／2030年目標では、「2°C」は不可能にはならないものの、強化しなければ達成は厳しい、という結論。

NDCを考慮した気温上昇の予測例 1 : Climate Action Tracker



* 5%-95th percentile of AR5 WGIII scenarios in concentration category 7, containing 64% of the baseline scenarios assessed by the IPCC
 ** Greater than 66% chance of staying within 2°C in 2100. Median and 10th to 90th percentile range. Pathway range excludes delayed action scenarios and any that deviate more than 5% from historic emissions in 2010.
 *** Greater than or equal to 50% chance of staying below 1.5°C in 2100. Median and 10th to 90th percentile range. Pathway range excludes delayed action scenarios and any that deviate more than 5% from historic emissions in 2010.

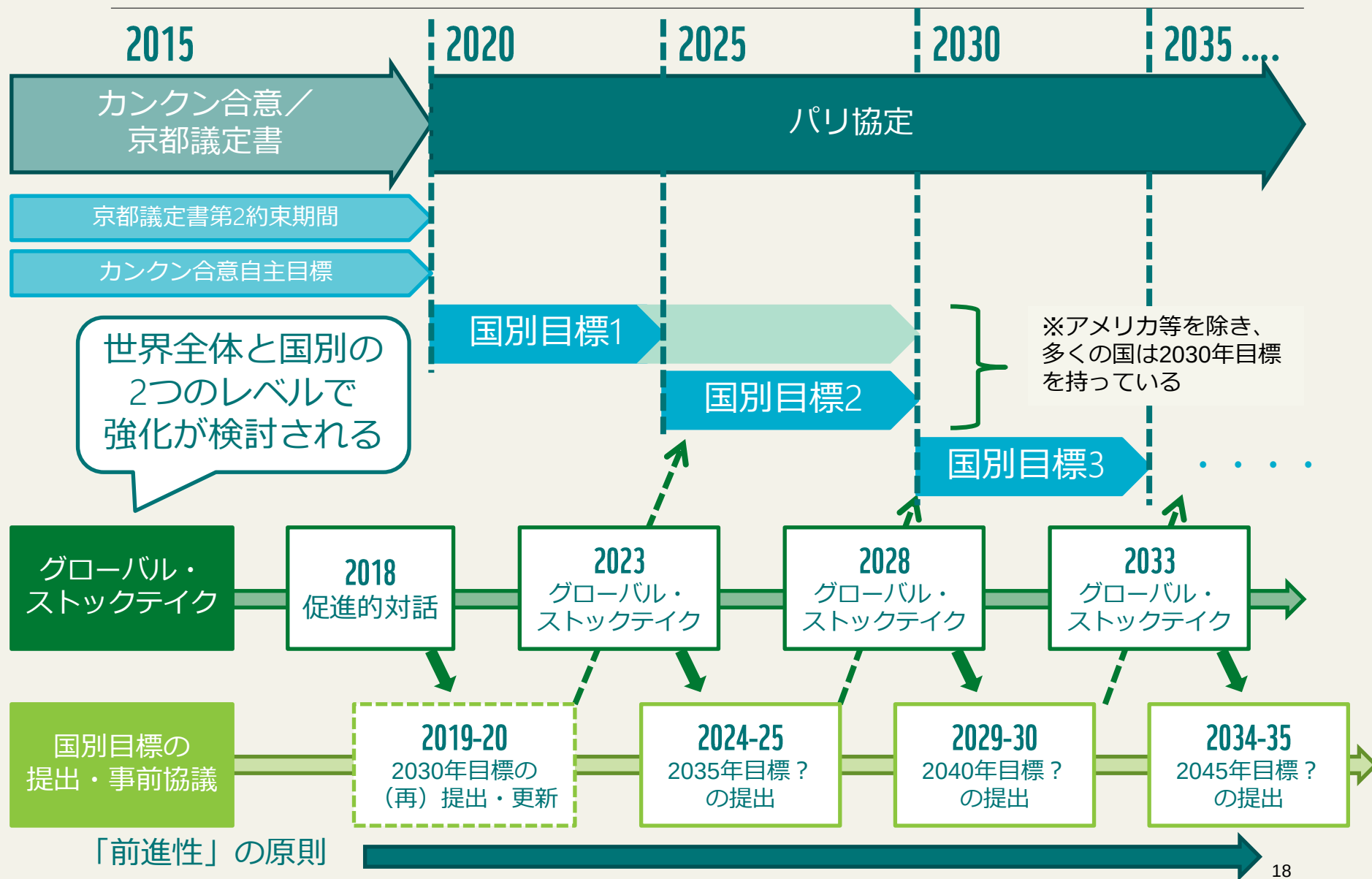
「2℃／1.5℃」目標と「実質ゼロ」目標



- ▶ 2℃・1.5℃目標を達成するためには、今世紀後半には温室効果ガス排出量はゼロにしなければならない。

(出所) 上記の2℃未満／1.5℃未満シナリオは、UNEP (2015) の中央値を使用。

5年ごとの見直しによる強化





これからもご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます

<http://www.wwf.or.jp/join/>
<http://shop.wwf.or.jp>